

「PTA活動と連携した学校運営のあり方」

—活動の活性化と教頭のかかわり—

I はじめに

現代の社会情勢の中で、学校教育は学校だけで行われるものではなく、家庭や地域の支えなしでは成り立たないことは今や自明のことである。

PTAは、学校教育を推進するため有効に働くべき組織であり、家庭及び地域と学校が一体となって児童・生徒を育むために重要な役割を担っている。そのためその事務局は、各学校において教頭が担当する場合がほとんどである。それは、取りも直さず学校運営においてPTA活動が重要な役割を果たしているからにほかならない。

しかし、少子化や地域の結びつきの弱まり等、社会状況の変化により、会員の参加意欲が減退し、活動の形式化に陥るケースも見受けられる。また、活動に関する多くの事務負担等が、教頭としての本来の職務に影響を与える現状もあり、組織や活動内容そのものを見直す時期にきていると考えられる。

そうしたことから、全国教頭会研究第10期1年目にあたる本年度は、まずPTA活動についての実態調査を行い、活動の活性化とそこから学校運営とのかかわりについて取り組むべき課題を具体的に絞っていくこととした。

II 研究内容

各校PTA活動の現状及び学校運営とのかかわりについて実態調査を行い、共通課題を明確にする。

○調査対象：甲州市内小中学校教頭18名（小学校13名，中学校5名）

また、洗い出された課題について中学校ブロックごとに実践報告を行い、各校の活動に生かす。

1 実態調査内容

(1) 組織について

- ① 本部役員（役職，選出方法）
- ② 一般役員（役職，人数，選出方法）
- ③ 専門部会について（部会名・活動内容・構成人数）
- ④ 教職員の担当

(2) 活動内容について（今年度あるいは昨年度の例） 回数・時期

- ① 会議（定期総会，本部役員会・執行部会，役員会・委員会）
- ② 講演会・研修会（時期・具体的内容・おおよその参加人数）
- ③ 奉仕作業（時期・具体的内容・おおよその参加人数）
- ④ その他学校独自で実施しているPTA行事・PTAに協力をお願いしている

学校行事等（時期・具体的内容・おおよその参加人数）

- ⑤ 会議・行事等への学校職員のかかわり
- (3) 役員・行事等の見直し・改善について

Ⅲ 成果と課題

1 調査結果の分析

会員数の減少・意識の変化等により役員選出や行事運営が難しくなっている現状もあり、組織や活動内容など学校ごとの違いが予想以上に大きい。その中で、さまざまな活動を通して学校教育にかかわろうと尽力されている保護者の姿がうかがえる。ただし、地域や社会への広がりという点で見ると、有価物回収等の取組もあるものの、全体としてはまだまだ弱い。

2 これから取り組んでいくべき内容

(1) 実態調査によって浮かび上がった課題

調査によって次の共通課題を明らかにすることができた。このことについて、来年度にかけて、各校での取り組み内容を報告し合い、主題に迫る具体的手立てを探っていくこととした。

【浮かび上がった課題】

1. 自主的な組織作りを進めるために事務局として何ができるか。
2. 有効的な情報発信の方法にはどのようなものがあるか。
3. 保護者の意識をどう変えていくか。
4. 地域とPTAとの連携をどう進めるか。
5. 教職員の参加体制をどう築くか。
6. 役員・会員との信頼関係づくりをどう進めるか。

(2) 実践報告から（課題に迫る手立て）

実践報告を通し、次のような具体的取り組みがあげられた（数字は課題番号）。来年度にかけて、共通して取り組む内容等についてさらに研究を深めたい。

- ① 会員の意識及び教養を高める（講演会・研修会、学年学級懇談会等）
..... 1・3
- ② 会員相互の理解及び親睦を図る（奉仕作業、親睦球技大会、地区懇談会、学年学級懇談会、有志による懇親会等）
..... 1・4・5・6
- ③ 緊急メール配信の整備、ホームページや各種たよりの充実を図る..... 2・3
- ④ 家庭と学校との連携により家庭教育の充実を図る 3・4・6
- ⑤ 児童生徒の安全を守る（交通安全指導） 3・5・6
- ⑥ その他（学園祭や運動会等行事への協力） 2・4

（文責：研究部長 齊藤 昌志）